

インプラント  
ニュース



since 1972  
Japanese Society  
of Oral Implantology

第3号

平成17年2月10日発行

# Implant News No.3

日本口腔インプラント学会会報

発行人 川添 堯彬

編集 日本口腔インプラント学会広報委員会

事務局

〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル301 (財)口腔保健協会内  
TEL. 03-3947-8891 FAX. 03-3947-8341

Eメールアドレス：jsoi@jsoi.jp

【本号のトピックス】

## シンボル・ロゴマーク決定，優秀論文賞受賞者紹介， 優秀研究発表賞決定，デンツプライ賞決定， 第34回学術大会報告，研修施設紹介

### シンボル・ロゴマーク決定する

本学会では、シンボル・ロゴマークを募集しておりましたが、平成16年9月3日（日）開催の平成16年度第2回理事会におきまして、応募のあった中から、前田芳信先生（大阪大学付属病院口腔総合診療部）が最優秀賞に決定しました。また、奥寺元先生（東京形成歯科研究会）、十河基文先生（大阪大学付属病院口腔総合診療部）、山上哲賢先生（京都インプラント研究所）が優秀賞に決定しました。



Japanese Society  
of Oral Implantology



日本口腔インプラント学会

「J」と「I」を囲む楕円形のフレームは、日本におけるインプラント技術の存在を示しています。「J」はJAPANを象徴する「J」であり、「I」はインプラントのイニシャルの「I」でもあり、それに

関わる歯科医師の存在を表しています。インプラント技術の広い活躍の場を示しているシンボルマークです。また、ブランドカラーである「JIレッド」・「JIグレー」は、当学会のイメージを色彩によって象徴するものです。

今後は、学会誌、ニュースレター、封筒等に、シンボル・ロゴマークを活用していきます。



総会場でお披露目されたシンボル・ロゴマークの前に立つ受賞者の方々。左から奥寺元先生、前田芳信先生、川添堯彬会長、山上哲賢先生、十河基文先生

## 優秀論文賞受賞者紹介



松谷善雄  
大阪歯科大学有歯補綴  
咬合学講座

この度は、私たち若い会員にとって最高の荣誉である優秀論文賞を頂き、たいへん光栄に思います。また、選考して頂いた諸先生方に感謝申し上げます。

部分欠損症例のインプラント補綴に際し、残存歯列と比べてどのような咬合接触を与えるべきかについてさまざまな見解が存在するなか、それを証明する論文がなかったことが、本研究をはじめのきっかけとなりました。

実際、インプラント部への機能力の集中を減ずるために、はじめから残存歯よりも若干低い咬合接触を与えてあるケースを数多く見受けます。また、はじめに残存歯と均等な咬合接触を与えても、経時的に変化が生じ、咬合バランスの変調をきたした症例を拝見することもあります。臨床において、咬合検査を行った結果、これらのように、インプラント部の咬合接触が残存天然歯よりも若干低くなっている症例であっても、患者さんは低いと自覚していないことが多く存在します。しかしながら、これが顎口腔系になんらかの影響を及ぼすのではないかと考え、本研究を行いました。その結果、インプラント部が残存歯よりも低い咬合状態のものは、均等な咬合状態におかれているものと比較したところ、インプラント側咀嚼筋の協調に変調をきたしていることが明らかになりました。つまり、長期的にみて、安定した経過を得るためには、残存歯とインプラント部には均等な咬

合接触を与えるほうがよいという結果を得ました。

本研究におきましては、片側遊離端欠損症例についての検討となりましたが、その他の欠損状態における、さらなる研究も必要かと考えております。

今回の研究結果が、皆様の臨床に少しでもお役に立てれば幸いに存じます。



北村亜紀子  
昭和大学歯学部歯科補綴学  
講座

この度平成15年度日本口腔インプラント学会優秀論文賞を受賞させて頂きまことに光栄であり、感謝しております。

今回受賞させて頂いた論文の要約は歯根膜組織由来線維芽細胞の増殖および分化を促進させる作用がある、各種サイトカインの組織誘導能を有効に発揮させるためのD.D.S材料として、高分子電解質錯体に着目しin vitroで検索を行ったものでした。生体適合性材料である高分子電解質錯体は臨床に応用できるものとして期待されていると考えられますが、今回は歯周病で損傷した歯周組織の再生や歯の移植による歯根膜組織の再構築のために各種サイトカインを用いる際にD.D.S材料として応用できる可能性について検索させて頂きました。

研究を始めた当初は実際に臨床につながるまでの距離に隔たりを感じ、当惑していたのも事実です。しかし、多くの失敗を重ねながら基礎的実験を続けていく間に再生医学の進歩にとって必要なin vitroでの研究の意義や臨床応用までの流れというものが理解できた気がします。

本研究のご指導、ご校閲を賜りました昭和大学

名誉教授、芝 燿彦先生に深謝致します。また研究の遂行に際し、終始懇切なるご指導、ご校閲を賜りました昭和大学歯学部口腔病理学教室、立川 哲彦教授に深謝致します。また、研究にご理解とご支援を頂きました昭和大学歯学部口腔病理学教室各位ならびに同歯科補綴学教室各位に心からお礼申し上げます。

### 学会功労賞受賞者紹介

湯浅保宏常任理事が平成 16 年度学会功労賞を受賞されましたので、先生のご略歴等をご紹介します。

#### 職歴等

1936 年 3 月 3 日生まれ  
 日本大学歯学部卒業  
 山口大学医学部歯科口腔外科入局  
 北海道形成歯科研究会顧問

#### 学会活動

日本口腔インプラント学会常任理事  
 第 17 回日本口腔インプラント学会総会・学術大会大会長  
 第 29 回日本口腔インプラント学会総会・学術大会大会長  
 日本口腔インプラント学会副会長

### 名誉会員紹介

以下の 2 名の先生が名誉会員になりましたので、ご略歴等をご紹介します。

柴田寛一先生

#### 職歴等

1923 年 6 月 12 日生まれ  
 大阪歯科医学専門学校卒業  
 愛知学院大学歯学部助教授  
 朝日大学歯学部教授  
 朝日大学名誉教授

#### 学会活動

日本歯科インプラント学会理事  
 日本口腔インプラント学会理事

日本口腔インプラント学会中部支部支部長  
 第 7 回日本口腔インプラント学会学術大会大会長

飯野健志先生

#### 職歴等

1931 年 12 月 5 日生まれ  
 日本歯科大学卒業  
 東京大学附属病院歯科口腔外科入局  
 石川県金沢市にて開業

#### 学会活動

日本口腔インプラント学会評議員  
 日本口腔インプラント学会理事  
 日本口腔インプラント学会指導医  
 第 15 回日本口腔インプラント学会近畿・北陸支部総会・学術大会実行委員長  
 日本口腔インプラント学会平成 13 年度学会特別賞



**Do it Yourself**



お問い合わせはフリーダイヤル: 0120-8150-62  
 バイコンジャパン株式会社 〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-3-12 アージュ I 7F  
<http://www.bicon.com>

外国製造医療器具承認番号 20800BZG00044000, 20800BZG00045000, 20800BZG00046000

## 特別賞受賞者紹介

以下の先生方が平成16年度の特別賞を受賞されました。

- 川上省三先生（関東・甲信越支部）
- 井汲勝行先生（関東・甲信越支部）
- 蒔田真人先生（中部支部）
- 小林 信先生（近畿・北陸支部）
- 内田康也先生（九州支部）

## 優秀発表賞

平成15年度の臨時総会において優秀発表賞の制度が設けられ、第34回日本口腔インプラント学会学術大会から、適用されました。厳重なる審査の結果、以下の先生方が受賞されましたのでご紹介致します。

平成16年度日本口腔インプラント学会優秀研究発表賞受賞者

課-9-7 インプラント義歯を装着した片側遊離端欠損患者における残存歯の予後調査  
○山崎聖也, 荒川 光, 小島俊司, 完山 学, 窪木拓男

岡山大学大学院医歯学総合研究科顎口腔機能制御学分野

課-10-3 アバットメント結合様式の生体力学的検討

○松下恭之, 保志美砂子, 壁村健一, 古谷野 潔

九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座

平成16年度日本口腔インプラント学会デンツプライ賞受賞者

ポー11-15 アルギン酸ナトリウムの添加がアパタイトセメントの機械的性質に及ぼす影響

○田島伸也<sup>1)</sup>, 西本紀彦<sup>1)</sup>, 岸 祐治<sup>1)</sup>, 加来敏男<sup>1)</sup>, 大内英二<sup>1)</sup>, 船橋賢市<sup>1)</sup>, 松家茂樹<sup>2)</sup>, 石川邦夫<sup>2)</sup>

社団法人日本歯科先端技術研究所<sup>1)</sup>, 九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座生体材料工学分野<sup>2)</sup>

ポー11-37 バーアタッチメントの維持力減衰について

○山根 進, 中根高信, 大江健史, 荒瀬陽一, 佐野和男, 三嶋 颯, 今村光志, 河上雄之介  
社団法人日本歯科先端技術研究所（東京都）



**3DX MULTI-IMAGE MICRO CT**  
High-Resolution Images of Region of Interest

顎、歯、口腔領域など頭頸部の硬組織、周辺組織の3次元画像による診断・精査に最適です。1回の撮影で、高精細の3次元画像が得られ、任意の3方向断面の観察ができます。インプラント、根尖病巣、顎関節、埋伏歯などの診断、精査に最適です。

- 関心領域の高精細3次元CT画像 - イメージングボリューム(φ40mm x 30mm)
- 高分解能 - 解像度: 2line pair/mm (MTF 10%) 以上  
- ボクセルサイズ: 0.125x0.125x0.125mm
- 低照射線量 - 撮影時間18秒、パノラマ撮影時と同等
- 簡単位置づけ - トリプルレーザービーム  
- スカウト撮影により正確な位置づけが可能
- 省スペース - 床面積: 1620x1200mm
- 統合画像処理ソフト「i-VIEW-3DX」  
- 院内ネットワークにて、デジタルパノラマ・口腔内カメラ等の画像も統合管理

標準価格 25,200,000円より 2004年12月21日現在 消費税別  
医療用具承認番号 21200BZZ00757

Happy Smiles & Heartful Communication

株式会社 モリタ 株式会社 モリタ製作所 株式会社 モリタ東京製作所  
www.dental-plaza.com

# 第34回日本口腔インプラント学会学術大会を開催して

大会長 前田芳信

実行委員長 十河基文

## ■約2,100名の参加者■

9月24日（金）～26日（日）、大阪国際会議場（大阪市）にて「第34回大会」を開催しました。メインテーマは「先進展開するインプラント治療—インターディシプリナリー・トリートメント領域への拡大」。今回は参加登録者数約2,100名という大勢の参加となりました。

## ■204題の研究発表■

研究発表では、204題もの多くの演題数を受け付けました。新設された課題口演では49演題、一般口演では88演題、一般ポスターでは64演題、国際的ポスターでは13演題でした。すべての発表が1日目目の午前中と午後の3:00までの時間帯で10室の会場にて、同時に発表されました。

## ■メインプログラム■

先進研究トピックス:再生医療で著名な上田 実先生と神戸市先端医療センターの馬場俊介先生に、この夏より一般患者へ臨床適応が可能となった骨造成についてのご講演を頂きました。

特別講演1, 2, 3:特別講演として、アジア代表の韓国サン・ワン・シン先生、ヨーロッパよりスイスのユーリ・グルンダー先生、そしてアメリカからはダラスよりパトリオット・アレン先生と矯正医のリチャード・ロブリー先生にご講演頂きました。

シンポジウム1, 2:シンポジウム1では、東京都の土屋賢司先生と、京都府の宮本泰和先生のそれぞれに1人でのインプラント治療についてご講演頂きました。またシンポジウム2では、欧米的なインターディシプリナリー治療的なチーム・アプローチによる治療について、小野善弘先生、中村公雄先生、前田早智子先生と、山崎長郎先生、鈴木真名先生、菊池 薫先生にそれぞれ専門的な立場からお3人でご講演頂きました。

歯科技工士セッションならびに歯科衛生士セッション:歯科技工士セッションでは増田長次郎先生（兵庫県開業）、十河厚志先生（大阪府開業）に、また歯科衛生士セッションでは本田貴子先生（熊本県勤務）、柏井伸子先生（東京都フリーランス）に、コ・デンタルスタッフとして歯科医師とどのようにコラボレーションすべきかについてご講演頂きました。

市民への公開講座:「市民公開シンポジウム」として日本学術会議口腔機能学研究連絡委員会市民公開シンポジウムを、また「市民フォーラム」として主管の近畿北陸支部副支部長と地元アナウンサーによって催されました。

## ■企業展示■

海外の学会の企業展示会場では、非常に参加者



第一会場風景



第一会場舞台

の多い状態を見ます。学術の意味だけでなく、ディスカウントで商品を購入できるといった経済的な理由も多いようです。本学会でもプラスにならないかと思い、① 予約販売、② ディスカウント販売、③ 企業展示会場でのキャッシュバー形式の懇親会（会費を徴収しない形式）を試みました。問題も多々あったと思われませんが、特にキャッシュバー懇親会では好評を得ました（写真）。来年度の薬事法改正後は学会での商品販売は難しくなりますが、日本における我々の業界の活性化を考える上では医師主導型で国に訴えるべきところは訴える必要性も若干感じました。

■さいごに■

「日本歯科医学会の分科会」への加入決定後初の学会で、また国民のインプラントへの関心の高まりをひしひしと感じ、いっそう国民の信頼に答える方向へと学会が進んでいることを大会事務局として実感いたしました。

しかし、本大会では不備も多く、多くの皆様方に

は大変ご迷惑をかけたことと深くお詫び申し上げます。また、本当にご参加頂いた皆様方や、学会長をはじめとして多くのお力添えを頂いた先生方には、学会が成功に終わりましたことを厚く御礼申し上げます。



ポスター発表会場



企業展示会場



企業展示会場でのキャッシュバー懇親会風景



## ストローマンデンタルインプラント



- 1回法・2回法選択可能な手術術式
- SLA表面構造による早期負荷の実現
- 良好なエマーゼンスプロファイル設計
- 負荷を分散させるスレッド部デザイン
- モーステーパーコネクション
- synOcta<sup>®</sup>システムによる  
スクリュー・セメント固定の補綴システム



マクロとミクロ、両方の粗さを備えた表面構造。サンドブラストによって作り出されるマクロの粗さ、酸エッチングによって作り出されるミクロの粗さが骨表面の細胞活性を促進し、骨との理想的な安定性を獲得します。

**SLA** Sand-blasted, Large grit, Acid-etched



**大信貿易株式会社**  
〒592-8346 大阪府堺市浜寺公園町3-231-3  
<http://www.daishintrading.co.jp>

医療用具承認番号 21400BZY00014000

## 第 35 回日本口腔インプラント学会 学術大会のご案内

主 管：日本口腔インプラント学会東北・北海道  
支部

支部長：梅原正年（青森インプラント研究会）

大会長：木村博人（弘前大学医学部歯科口腔外科  
学講座）

準備委員長：小林 恒（弘前大学医学部歯科口腔  
外科学講座）

期 日：平成 17 年 9 月 17 日（土）、18 日（日）

会 場：弘前市民会館、弘前文化センター、ホテル  
ニューキャッスル、弘前商工会議所会館

第 35 回日本口腔インプラント学会総会学術大  
会を青森県弘前市で行うことの指名を受けました。

福岡市、広島市、名古屋市、大阪府と大都市で  
の学術大会の後、みちのくの小古都弘前市で行う  
ことにいささかの不安を感じておりますが、青森  
インプラント研究会（梅原正年会長）と弘前大学  
医学部歯科口腔外科学講座（木村博人教授）が共  
同で誠心誠意地方色豊かな学会にしたい所存です。

慶長 19（1614）年江戸時代に将軍徳川秀忠の  
命で、豊臣秀吉時代（名古屋）の家老宇喜多秀家  
（岡山）の親族を始め、京都大阪の大名、武士、  
御用商人 71 家族がキリシタンと称して津軽に流  
刑されたという史実は当学会主管の順序と何かの  
因縁ではと不思議に思っています。

弘前市における日本口腔インプラント学会学術  
大会のメインテーマは“先進展開するインプラ  
ント治療—エビデンスとコンセンサスを求めて”を  
選びました。

弘前市で行われる学会が、日進月歩のわが国口  
腔インプラントの最先端を語ると共に、その最先  
端技術が evidence に基づいた診療の実際として、  
誰が行っても確実なものとなるよう一つのコンセ  
ンサスが求められればと願うものです。

9 月中旬の弘前地方は紅葉には少し早めですが、  
初秋の爽やかな空気と色鮮やかな林檎の実り豊か  
な時期です。

多くの演題と多くの先生方の学会参加を期待い  
たします。

## 認定医申請用教育講座開催される

平成 14 年度の認定医制度改正により認定医取  
得のためには、臨床系あるいは大学系いずれかの  
研修施設に所属し、所定の研修（112 単位以上、  
合計 84 時間）を受けていることが条件となってい  
ます。その中で臨床系研修施設では、研修施設単  
独ですべての研修（112 単位）を行う単独型研修  
と、学会の開催する『認定医申請用教育講座』（1  
回 8 単位）を合計 4 回受講（32 単位）し、残りの  
80 単位を研修施設で研修する併用型研修を行う  
施設に分かれております。

今年度は、下記の内容にて『認定医申請用教育  
講座』の開催が実施されました。

本講座は、併用型研修施設に所属されていない  
会員も受講できますので、この機会にインプラ  
ントに関する基礎知識を整理・再確認してみたい  
かがでしょうか。次年度からの講座にも奮ってご  
参加下さい。詳細については、学会誌 18 巻 1 号に  
掲載予定の案内をご覧ください。

### 第 1 回講座

開催日：平成 16 年 6 月 12 日（土）

場 所：（株）モリタ東京本社 5 階研修室

#### インプラント概論

京都インプラント研究所所長 山上哲賢先生  
インプラントに必要な解剖

東京歯科大学口腔解剖学講座教授 井出吉信  
先生

#### インプラント病理学

東京歯科大学臨床検査学教室教授 井上 孝  
先生

### 第 2 回講座

開催日：平成 16 年 9 月 26 日（日）

場 所：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）

#### インプラント生理学

昭和大学歯学部口腔生理学教室教授 井上富  
雄先生

#### インプラント材料学

昭和大学歯学部歯科理工学教室教授 宮崎  
隆先生

#### 画像診断の意義と目的

日本歯科大学歯学部歯科放射線学講座教授  
代居 敬先生

## 研修施設紹介

### 青森インプラント研究会

青森インプラント研究会会長 梅原正年  
会員数 56 名 認定医 9 名 指導医 3 名

(目的) “現代歯科医学の最先端、総合科学の正しい吸収と研究”

歯科インプラントに対する姿勢として納得いくまで勉強し、確信が持ててからインプラント治療を実行することとしています。

(活動状況)

現在の主な活動としては、認定医取得 100 時間講習会のほか、外来講師を招いた講演会による勉強会を含め 4～8 回に及ぶ特別講習会を行っています。また、2002 年まで 20 回に及ぶ岩手医大歯学部においての動物実験を行っていました（現在は一時休止）。

1. 年 1 回会報の発行
2. 年 1 回会員発表会
3. 外来講師による講演会（歯科インプラント基礎、歯科インプラント臨床、インプラントに付随する歯科臨床基礎、一般外科臨床、医科倫理道德、その他）
4. インプラント認定医、指導医取得の講義と臨床実習
5. 秋田インプラント臨床研究会、岩手オーラルインプラント研究会と合同で年一回の交流会（北東北インプラント研究会交流会）

(青森インプラント研究会発足について)

昭和 53 年当時の流行だったスターデーグループに弘前歯科臨床研究会がありました。その一員の梅原正年先生がインプラントに興味を持っておられ、インプラントでは一番古くから研究されている仙台の懸田利孝先生と交流があることから、私たちがインプラントとは如何なるものか、臨床応用の是非を勉強しようというムードがでてきました。1、2 年インプラント講演会、研修会など開いていましたが、歯科界におけるインプラントの位置付けは音楽界におけるオペラと同じく、歯科総合学であることに気づき、弘前歯科臨床研究会と分離し本格的に勉強しなければというムードがでてきました。昭和 56 (1981) 年 4 月梅原正年先生がパリ名誉市民賞受賞祝賀会を契機に、岩手歯科

大学病理学教授鈴木鍾美先生、仙台開業懸田利孝先生をお迎えして、青森インプラント研究会が発足しました。発足当時の会員は八戸、三沢地区 6 名、青森地区 3 名、弘前地区 16 名 計 25 名でした。各地区に黒田政俊先生（三沢）、佐々木敬先生（青森）、梅原正年先生（弘前）を代表者とし、持ち回りで研修会、講演会を行うこととしました。昭和 55 年より岩手医大歯学部口腔病理学講座非常勤講師として勤務、鈴木鍾美教授と共に動物実験を始めた梅原正年講師のご厚意で、板垣光信先生、大津匡志先生、西郷慶悦先生等が共にインプラントについて動物実験を始めました。平成 4 年に日本口腔インプラント学会が認定医制度を設立。青森インプラント研究会の中にも認定医取得とインプラントに関する知識をより詳しく勉強することを目的としたアクティブメンバーで平成 5 年に分科会を成立させました。設立当時の青森インプラント研究会会員数は 50 数名、内分科会会員は 16 名を数えるようになりました。平成 9 年には共に歴史的には相当古くから行われていた研究会の岩手オーラルインプラント研究会、秋田インプラント臨床研究会と合併。一つのインプラント研修施設として共同で後輩の指導、研修に当たることとしました。

(弘前大学医学部付属病院との連携)

現在、本研究会では、弘前大学医学部付属病院歯科口腔外科学講座、木村博人教授の御厚意により、腸骨移植を併用したサイナスリフトの症例など、一般開業医にとってインプラントが難しい症例を口腔外科専門医にお願いすることができるようになりました。弘前大学の口腔外科と連携がとれることにより、インプラントを埋入するための基本である外科術式、消毒概念など、一般開業医が軽視していることを直接指導していただけるのもメリットです。2005 年は、第 35 回日本口腔インプラント学会総会が弘前市で開催される予定です。数多くの先生方のご参加を期待するとともに、大学との連携を密にし、インプラントを臨床応用されている先生方の御期待に応えられるようなプログラムになるよう努力したいと思います。

### 社団法人日本歯科先端技術研究所

所長 山根 進

平成 4 年 11 月 29 日より、社団法人日本歯科先



端技術研究所（日先研）は日本口腔インプラント学会の研修施設の指定を受け、学会活動に協力してきました。日先研は厚生労働省認可の社団法人であり、会員数は約700名で、東京事務所と全国を6地区に分けた地区組織で運営されています。日先研は役割分担および責任の所在を明確にするために10の委員会から構成されています。委員会名は総務、財務、編集、刊行、長期研修、短期研修、フェロー・マスター、倫理、実験所運営、口腔ケアであり、それぞれの委員長が取り仕切っています。現在、学会の指導医は23名、認定医は81名在籍しております。日先研は東京都港区芝に講義室兼事務所を構えていますが、山口県宇部市に附設実験所を開設しています。指定研修施設として、毎年学会のカリキュラムに従った112単位長期講習会を実施しており、その受講生は学会の認定医受験資格の一部を得ることができます。また、日先研は日先研の会員が認定医になるためのサポートを行っています。現在、日先研では会員の生涯研修として、112単位長期講習会の受講生を対象にしたアドバンスコース、55歳以上の会員を対象にしたリフレッシュコースを実施し、また、地区組織においては少なくとも年に一回以上口腔インプラントのオペ研修をするようにしています。700名の会員が共通意識をもって、意識改革を行うべく、また会員の技術向上のために年に4回日本歯科先端技術研究所会誌（日歯先技研会誌：SCIENT. J. J. I. A. D.）を発行しております。このように日先研は国民に技能集団としての存在を認めてもらえるように会員一人一人が努力しています。

日先研の発祥は昭和30年山口大学医学部附属病院歯科口腔外科内にできた口腔外科研究会であります。主に兔唇口蓋裂や顎骨骨折の研究がテーマでした。昭和34年に形成歯科研究会になり、全国から先生が集まるようになると、昭和40年に日本形成歯科研究会と改称されました。さらに昭和56年には山口県認可の（社）山口県形成歯科研究会を設立、附設の実験所を開設しました（図1）。昭和62年11月20日に厚生省認可社団法人日本歯科先端技術研究所となり、全国組織に成長してきました。その目的は歯科先端技術に関する調査研究、開発及び実験並びにこれらの成果の普及に関する研修等を行い、歯科医療の普及向上を

図ることであり、設立以来、口腔インプラントの臨床、研究、普及に携わってきました。現在、インプラントはかなり長期にわたって機能をするようになり、研究開発からメンテナンスに我々の興味変化してきました。日本はこれから未曾有の高齢社会に突入していきますと共に、インプラント装着患者も驚異的に増加していくと思われ、インプラントの清掃を徹底的に指導していくべきと考えます。その場合、インプラントのみの清掃というわけではなく、一口腔全体の清掃を考慮し、口腔内の感染予防を図ることが重要であり、今後は益々口腔ケアの重要性がさげばれてくると思います。そういう意味で、日先研は今年から口腔ケアを中心とした市民講座を開催することになり、第1回の口腔ケア市民講座は平成16年6月28日に日本歯科大学の富士見ホールで約400人の市民の出席のもとで行われました（図2）。日本歯科大



図1. 日先研宇部実験所



図2. 日先研第1回口腔ケア市民公開講座  
（特別講演の養老孟司先生）

学の菊谷 武先生による「高齢者における口腔ケアを考える」、東京歯科大学の石原和幸先生による「歯周疾患と全身疾患の関連について」、東京大学名誉教授の養老孟司先生による「介護の壁とは?」、筆者・山根による「インプラントにおける口腔ケア」の講演が行われ、活発な質疑応答がおこなわれました。今後、我々日先研は日本口腔インプラント学会とともに、国民に口腔インプラントの正しい知識および普及のために日夜努力研鑽していく所存であります。

## 徳島大学病院口腔インプラント診療部門

文責 友竹偉則

徳島大学歯学部第一補綴科は第二口腔外科のサポートのもとに1985年にアパタイトインプラント治療を開始しました。その後、Steri-ossインプラントを導入し、インプラントの臨床と研究を進め、99年に日本口腔インプラント学会臨床研修施設に認定されました。一方、第一口腔外科と第二補綴科はBrånemarkインプラントを遅れて導入し、その後、病院全体でのインプラント治療という考え方と、医学部、歯学部附属病院の統合の中で、現在、臨床研修施設は徳島大学病院口腔インプラント診療専門外来（施設長：口腔顎顔面補綴学教授市川哲雄）として活動を行っております。

当病院では、インプラント治療に関しては、92年に高度先進医療に「インプラント義歯」が認められ、2000年に文部科学省の高度先進医療開発経費が認められ、これ以降光造形システムを用いた即時負荷インプラント治療法を始めとする先端的なインプラント治療にも取り組んでおります。また、インプラント治療の術前検査に欠かせなくなってきた最新鋭のCT撮影装置が99年に導入されました。院外から検査依頼の件数も年々増加しており、歯科放射線科がその依頼患者の対応に当たっています。さらに、CTデータから、PC上での設計や骨移植などの造成術の検討することのできるシミュレーションソフトや、顎骨の実体モデルを作製する光造形装置を導入し、精度の高い治療設計を行い、依頼を受けた開業医の先生方との連携も進めています。これら本院のような医療機関ならではの設備に接し、利用してもらうことも臨床研修の一環と考えています。

現在、口腔外科、補綴科、歯科放射線科、歯科麻酔科、予防歯科、そして技工部と、治療ステップ毎に各科の連携をとって治療を進めています。まず、補綴主導型の治療方針から上部構造体の設計や形態を補綴科が設計し、それに対する埋入インプラントの本数や位置、方向に関して、さらに骨移植などの骨造成術の適否については口腔外科が意見を述べるような合同の症例検討会を行い、最適な治療方針、設計を導き出すように努めています。このような機会は、他科の専門的知識や治療に対する異なった視点に接するいい機会であり、自らのインプラント治療技術の向上に有効であると考え、臨床研修の先生方も参加するようにしています。併せて、術前の一般検査（生化学、血圧、心電図、尿検査等）の結果から、観血処置に対する適否や術中の麻酔処置、および術後管理についても検討して、全身管理に対する理解も深めています。その他、日進月歩の治療方法、材料の情報に関しては、定期的な抄読会や勉強会も開催して、常に最先端の情報を取り入れるようにしています。

臨床研修を希望する開業医の先生には、本院の臨床登録医に登録いただき、指導するスタッフの下で診療に当たってもらっています。これによって、知識のみならず、実践による技術修得を目指しております。インプラントに関する研究に興味を持たれている先生には、社会人大学院としての進路も用意されています。臨床研修施設としても、従来からの第一補綴科を中心とした研修から、口腔インプラント診療専門外来による専門性の高いチーム医療体制の中で実践できる環境を、今以上に整えていきたいと考えています。

## 日本歯科大学新潟歯学部附属病院

口腔インプラントセンター  
センター長 渡邊文彦

### 1. センター治療

口腔インプラントセンターは平成7年に新潟歯学部附属病院の2つ目のセンターとして開設されました。現在、本学附属病院には、5つの診療科、4つのセンター、8つの特殊外来と在宅往診ケアチームが存在しますが、センターは各診療科、講座所属の医員がチームを編成して統一した治療コンセプトにて治療にあたります。医員は口腔外

科、総合診療科（旧補綴科、旧保存科、旧歯周治療科）、歯科麻酔・全身管理科、放射線科さらに各補綴科、歯周治療科の講座から構成されています。具体的には患者はすべて、口腔インプラントセンターで初診、センター登録され、治療計画書の作成、チームアプローチによる治療、リコール、センター長による初診チェックと終了チェックが行われます。センターの運営は月1回の運営委員会によって器材の申請、センターの運営方向、治療費の原案作成、治療システムの構築などさまざまなことが行われています。構成はセンター長を中心に各科から1名あるいは2名の医員から構成され（図1）、毎月最終の水曜日に午後5時30分からアイビーホールにて口腔インプラント治療に関する運営会議と症例報告を行っています。症例は翌月にインプラント埋入予定の患者の治療方針について、担当医から報告される形で行われます。症例報告会はオープンとなっており、医員、研修医、歯科衛生士、歯科技工士だれでも参加できます。センターで使用されているインプラントは現在CAMLOG、Frialit2、ITI、POI、IMZ、Branemarkがあります。これらの6つのインプラントの選択はそれぞれチームを組む担当医により決定されます。インプラントセンターでの治療は医員であれば誰でもがチーム編成を組み治療にあたることができますが、多くの場合インプラント治療をはじめて行う医員は、先輩の医員の指導のもとに治療法を習得していきます。またチームで診療にあたるため、経験を積んでくると、チーム内で口腔外科の専門医が補綴治療を、また補綴の専門医がインプラント埋入を行うことがあり、知識、技術の共有、教育を行っています。センター方式はこの点が利点であると考えています。埋入は埋入手術だけとか、補綴は修復だけと規制すると、専門分野の見方に偏り治療ゴールに対する共有した見方を失います。過去私たちも、専門は専門と独自にまかせたチームアプローチ、これはチームアプローチといわないかもしれませんが、これを行い、失敗した経験を持ちます。やはり、チームアプローチはお互いの治療に対する意見の一致と十分なコミュニケーションが大切です。現在センター登録の医員は40名ほどがいます。また研修医や歯科衛生士の専攻科の選択プログラムにも入っており、毎年数人が専攻しています。

## 2. 新潟歯学部における6つのインプラントシステム

日本歯科大学新潟歯学部で6つのインプラントシステム方式を導入している理由には幾つかの点があります。器材管理等から考えれば個人的には1つあるいは2つ、最大で3つにするべきです。昭和54（1979）年から三条市 榎本歯科医院、榎本紘昭先生のご指導により、補綴第2講座（畑好昭主任教授）を中心として京セラのセラミックインプラントを導入、ポーラスインプラントを含むいくつかの臨床治験を行ってきました。その後、1987年米国より帰国した同講座の渡邊により Dr. Mentag, Dr. Babbush, Dr. Kirsch, Dr. Ackermannらの協力もあってIMZインプラントを導入しました（図2）。また時を同じく口腔外科第2講座の又賀 泉教授、補綴第1講座の旗手



図1 口腔インプラントセンター運営委員会

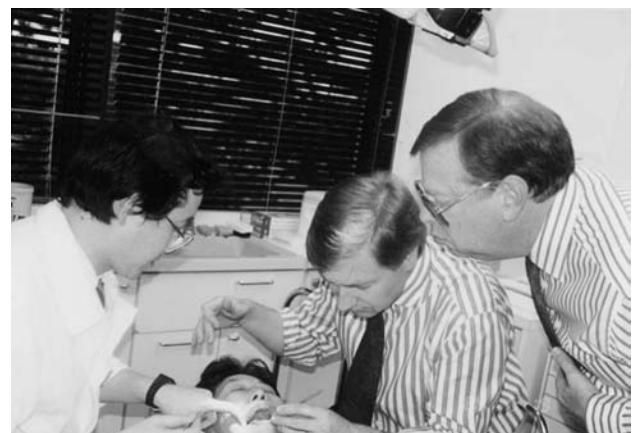


図2 Dr. Kirsch, Dr. Babbushによるインプラント治療患者の確認

敏教授（現在はすでに退職されています）により Branemark インプラントが導入され、また 1992 年は第 3 補綴の小司利昭助教授により、ベルン大学より ITI インプラントを導入しました。インプラント治療はこのように病院内で講座を中心に行われましたが、1995 年、各講座で個々に行っていたインプラント治療を統合したのがセンターでした。しかし、複数のシステムを応用するにあたり、明確にしなければならない点が、また病院内での応用に関してのコンセンサスが必要でした。1 つには治療ステップ、治療費の統一化、インプラント治療に対するインフォームドコンセントの標準化、またチーム編成に際してのとりきめ、また治療前と治療終了の確認、この点でセンターチェックの形をとり、センター長による治療前と治療後の確認を行っています（図 3）。治療前には適切にインプラント治療に対しての説明ができていないか、治療計画書（担当医、院務部、患者への 3 枚コピーの治療説明、同意書）が提示されているかの確認をとります。また治療終了時には、エックス線、口腔内の状態を確認しながら、患者への終了の確認を担当医立ち会いで行います。この点で完璧とはいえませんが、今までに大きなトラブルはありません。

### 3. 私たちが考える今後の附属病院口腔インプラントセンターのあり方

インプラント治療は年々高度な技術が必要とされる症例が増えています。より審美的に、また骨移植、歯肉粘膜移植を必要とするような治療が増

し、高いリスクを私たちが追うようになっていきます。この点から地域の医療機関の先生方と協力、連携して、患者にとって最も適切な治療は何かを考えながら、最終的なゴールを見据え、さらに口腔外科、補綴、歯周、歯科矯正、歯科麻酔、放射線科の連携とチームアプローチでの治療が推奨されます。また歯科衛生士によるプラークコントロール、歯科技工士による診断用ワキシング、ステント製作、上部構造体の製作はもちろんですが、患者の高齢者化も考え、家族を含めた治療後のケアについても考えていく必要があります。今後は地域のなかでの二次医療機関として、また研修の場として、センターが求められると考えます。

## 支部活動報告

### 中部支部活動報告

支部長 蒔田真人

愛知・岐阜・三重・静岡の東海 4 県からなる中部支部の会員は現在 636 名（平成 16 年 7 月末）を数え、ここ数年での会員の増加は著しいものがあります。昨年 7 月に中部支部が主管し、名古屋国際会議場で開催された第 33 回日本口腔インプラント学会総会・学術大会において、出席登録 1,850 人と例年の約 1.5 倍の参加者があったことも、その現れといえるでしょう。

中部支部の今年度の活動は、第 25 回日本口腔インプラント学会中部支部総会・学術大会を平成 16 年 11 月 21 日（日）に名古屋国際センターにおいて、田川 清・大会長、高木哲朗・副大会長、大原敏正・実行委員長、福与誠邦・副実行委員長のもと開催されました。当日の特別講演は、京都インプラント研究所の山上哲賢所長に、また教育講演は、大阪大学歯学部附属病院口腔総合診療部・前田芳信教授にお願いしました。お二人の E.B.M. に基づいた貴重な臨床は、会員のレベル・アップにつながりました。

中部支部は、その構成が他の 5 支部と比べると 4 県と非常に少ない狭い地域なのが特徴ではありますが、現在、再生医療分野で日本をリードされている名古屋大学医学部を始め、岐阜大学医学部、三重大学医学部、浜松医大、愛知医大、藤田保健衛生大医学部の口腔外科や愛知学院大学歯学部、朝日大学歯学部等、インプラントを積極的に取り



図 3 インプラントセンター長による初診チェック

組み始めた大学関係も多く、また藤枝市立総合病院等、各地域の病院口腔外科では臨床応用に非常に熱心であるため、今後中部支部でインプラント臨床は、益々普及していくと思われます。そのため、中部支部としては、それら施設との緊密なコミュニケーションの上になった情報の集積地、発信地としての役割とともに、对患者、対社会への窓口ともなる大きな使命を果たしていかなければならないように思います。

## 研修施設

日本大学松戸歯学部付属病院インプラント診療科

## 新入会者紹介

平成16年4月1日から平成16年11月30日までに以下の先生方が新しく入会されましたのでご紹介致します。

飯野雅一、市来 誠、大塚喜彦、小笠原一行、  
奥田泰生、金川直博、河合建也、川端 克、  
久賀陽子、朴 幸佑、宮本武直、山口康介、  
山本貴史、国森健太郎、坂下正彦、関本浩貴、  
高橋伸尚、田中孝昌、常田幸斉、永松千代美、  
池淵 剛、乾 友典、林 成謙、原 俊浩、  
渡辺勝一、倉林 亨、小林茂勝、杉沢啓三、  
杉沢正也、林 玄治、舟木貴美、堀内 学、  
青木 健、江川光治、菊地健太郎、津田賢治、  
前川賢治、的野良就、今井義男、菅野 寿、  
富山雅史、長井康平、長屋 淳、松永健嗣、  
青木洋大、英保裕和、生沢啓極、大内田理一、  
小野紘明、渋谷恭之、陣内みさき、小澤 学、  
中村秀亘、山口昌彦、伊藤寿浩、笹田雄也、  
神野洋平、中尾知恵、深澤正幹、山田昭仁、  
山ノ内せり、坂本好司、大塚哲郎、詫間俊夫、  
田島 徹、林 秀一、平原順也、渡辺政継、  
濱田真人、星野 守、山本 薫、梁 俊信、  
梅村義成、神野正人、和田圭祐、石川一郎、  
服部重信、浅井裕之、小松貴之、政久直紀、  
三浦大輔、八木孝起、高橋武利、田代智彦、  
山本 学、吉田雅人、市原敏行、橋本 真、  
馬殿展子、竹島明道、堀江彰久、加藤勝重、  
小林 敦、千葉利昭、堤 豊重、吉見哲朗、  
岡村勝文、柏木宏介、神倉貴彦、桐月寛郎、  
篠原裕志、嶋本道晴、竹中めぐみ、田中俊充、

谷川令奈、富樫敏夫、鳥塚健太郎、中川雅裕、  
野村憲治、馬場信行、矢毛石玲、柴崎 聡、  
新井、剛、緒方憲一郎、北井則行、熊谷順也、  
佐藤隆太、日野 純、増田知弘、飯野陽子、  
今村光志、岩城正明、大村佳子、坂本憲昭、  
安田淳一、依田一峰、依田淳一、宇野孝裕、  
清水勇氣、田中順子、吉田奈々、加藤裕彦、  
佐藤光正、蛭間信彦、谷口雅人、伏見 学、  
鈴木達也、中平裕一、加賀井 清、柏尾達也、  
加藤裕亮、鎌田友次、河野寛二、鈴木 一、  
山口大輔、渡辺純一、田崎純一、藤善義明、  
森山広之、黒田和彦、栗原和博、當山 徹、  
春田泰彦、甘 俊麗、後藤恵一、才 曉慧、  
徐 小麗、申 曉青、田中昭男、積田光由、  
方 一如、島田雅胤、泉 さや香、小石 剛、  
小島英子、島田英治、進藤大輔、甘利光治、  
川瀬恵子、中村貴弘、藤原康則、松井 力、  
道田 剛、伊藤 玄、飯野文彦、石井達也、  
比留川守道、天羽 隆、諏訪武利、水永丈嗣、  
若林則幸、今井敏夫、榎本琴世、曾田憲司、  
高橋章子、田昌 守、富永祐司、中西健裕、  
阿部 淳、岡林茂壽、瀬田修一、宋 桂雄、  
立山永大、林 伸至、松岡伸輔、山崎聖也、  
竹田、愛、藤本芳弘、吉田健二、川野 崇、  
貞森克也、近森裕子、山田泰寛、下平大治、  
関山尚克、西 亮一、堀川卓也、山下佳雄、  
米村隆司、児玉拓也、前田武将、井上美香、  
木村勝彦、佐々木一彦、多保 学、松岡恵理子、  
新井俊樹、原田武洋、川口正敬、菅野磨以子、  
山内健司、奥村礼二郎、下野賢吾、服部雄一郎、  
井上太郎、栗原 仁、角田栄一、吉田浩二郎、  
下川千可志、神野史子、志賀 博、西村叔枝、  
横山正起、太子裕仁、鎌田大輔、米田宣英、  
日浦成彦、角館直樹、桑原伸吉、川田節大、  
毛利裕弥、大坪由佳、坂本和美、森永建三、  
畔上知子、岩渕雅諭、田中誠孝、玉置盛浩、  
村上 馨、森川智史、山崎喜典、上田貴彦、  
後藤暢大、埴原恒彦、大坂栄樹、五藤晃義、  
佐木宏吉、谷石勇也、長野敏朗、濱野みゆき、  
井原郁夫、北爪孝昌、齋藤健介、齋藤百合子、  
田口庸一、壺中隆行、松村眞次、山田雅司、  
木村英敏、鶴淵 浩、穂坂康朗、村上文彦、  
山田宰史、遊佐 浩、吉田清隆、有坂一男、  
今富収治、田中雅博、今西浩文、梅津俊聡、  
小野章太郎、金 漢俊、白井泰彦、菅原健児、  
山根浩二、遠藤育郎、吉川元仁、佐藤大志、  
菅原 孝、吉田 健、阿部光弘、本田知久、

加藤麦夫,	白重豊英,	新谷継郎,	新井是宣,	中田秀美,	中平 宏,	西 治,	野島淳也,
岡本 歩,	片岡 有,	小関清子,	小澤元弘,	比嘉輝夫,	宮澤篤史,	本橋淳子,	山口智明,
櫻井秀憲,	清水伊織,	山口公司,	青木久美子,	依田哲也,	渡津 章,	牛嶋真嗣,	大槻榮人,
小浦忠宗,	小野泰志,	川原祐三,	村上 智,	梶原淳久,	久保周敬,	滝 育朗,	野口晶乙,
井尻博和,	中村明博,	山田 誠,	中野旬之,	橋本一慶,	廣田育敬,	山本律夫,	小林裕史,
永光英之,	濱田 久,	渡辺慶太,	植山恵史,	佐藤 徹,	田辺健次, Junro Yamashita,	佐藤太郎,	関矢泰樹,
勝俣浩一,	大熊信行,	川口 泰,	廣川正明,	鶴巻 浩,	小原俊彦,	宮本元治,	橋本英子,
瀧谷佳晃,	大谷 昌,	榊原康智,	山本啓太郎,	萩原郷史,	村上 聡,	新井康仁,	粕谷 寛,
木村治郎,	澤田修司,	高田利章,	早川安光,	伊禮 究,	岡村 徹,	藤岡忠良,	赤崎文平,
弘部俊彦,	大山恒徳,	須賀 勉,	中澤直希,	木下匡一,	小川知子,	露木良治,	樋之口 貴,
川鍋絹恵,	川鍋 仁,	高江洲 慶,	栗原大介,	風間清孝,	加藤 宙,	遠山元博,	小島波尾,
鳥山 茂,	五十嵐ゆか,	内田 智,	滝 照広,	吉田良和,	黒岩裕一郎,	佐村克利,	岩田盛満,
土田華絵,	伊藤佳依,	岡村立国,	倉持裕美,	高松 宏,	金子隆太,	綿引隆一郎,	児島伸也,
柏木 了,	宮田晃男,	武蔵哲貞,	中地昭雄,	榊原 毅,	手代木 崇,	土井伸浩,	植田浩志,
武石朝裕,	奥山美穂子,	佐々木公寛,	原田憲作,	山根総一郎,	白 賢,	宮國寿一,	堀元隆司,
深水康太郎,	宮坂郁子,	宮田定俊,	村田容子,	江口美香,	星野修平,	加藤正嗣,	小峰 太,
伊藤 理,	金沢成光,	小松栄一,	高岡慈郎,	山口健司,	荻須崇仁,	吉武邦彦,	浅井宏志,
丹谷聖一,	森田敏之,	石川温子,	大橋 哲,	進藤充夫,	松井利賢,	橋詰雅志,	高田耕平,
川畑知広,	城所 貴,	土井厚子,	土井俊廣,	中川豪晴,	中川雅博,	的場保典,	山崎貴也,
中尾忠篤,	大塚俊裕,	木村哲也,	矢島安朝,	徳山鐘雄,	橋場友幹,	山崎信也,	吉田忠正,
窪田 好,	坂口雄一,	澤木信興,	玉置忠宏,	各務秀明,	田中憲一,	伊藤意作,	角田左武郎,
中村勝文,	粟生田晃一,	加古公一,	小平真倫丞,	根本一行,	伊藤意作,	宮田幹郎,	野本俊太郎,
坂井 聡,	林 幸男,	吉嶋佑佳,	渡邊 恵,	野田豊作,	宮田幹郎,	尾崎元樹,	大関豊岳,
小川喜生,	鈴木道子,	長谷川洋人,	渥美浩行,	六本裕嗣,	尾崎元樹,	今鷹総子,	土屋浩昭,
河村啓司,	中村公久,	堀江泰史,	正木千尋,	三木通英,	今鷹総子,	山井由香,	有吉史郎,
加藤道夫,	唐澤一豊,	竜崎美樹,	有竹一樹,	根津雅彦,	山井由香,	川村克成,	嶋田聡彦,
石田浩之,	石田元久,	原井久枝,	青野英二,	尾立哲郎,	川村克成,	鈴木伸洋,	田中英俊,
川村幸司,	平 幸雄,	花田道人,	丸山正記,	南口 正,	鈴木伸洋,	上瀧大輔,	神 敬,
毛利英樹,	麻生幸男,	太田嘉英,	唐木田一成,	雨森洋貴,	上瀧大輔,	原島 大,	溝井千鶴子,
竹之内大助,	宮本郁也,	角田愛美,	新田 悟,	立山政記,	原島 大,	溝井千鶴子,	溝井文夫
大野紀和,	鈴木克彦,	田口智彦,	田代眞己,				
稲森新一郎,	宇治川清登,	岡崎雄一郎,	小澤靖弘,				
君 賢司,	高田篤史,	武田康篤,	中山聖之,				
平 晃一,	田村 郁,	鹿島長門,	酒井隆史,				
関根賢司,	有輪理彦,	小田充匡,	佐藤高弘,				
田中裕基,	中山美和,	西村明子,	宮澤 進,				
翁川孝行,	片倉 玄,	石田邦夫,	佐藤 篤,				
中村信一郎,	森田晃司,	朝森千永子,	釜崎直人,				
上津誠司,	川瀬仁史,	坂野雅洋,	松岡 誠,				
石田 亮,	西川 毅,	樋口鎮央,	松井 宏,				
山本正浩,	石井麻紀,	井原千恵,	井村浩一,				
北沢 敦,	竹野 聡,	曹 浩象,	東條秀太郎,				
松尾幸一,	森本浩嗣,	石原 広,	伊藤 剛,				
烏帽子田敬,	岡根百江,	小沢宏亮,	加藤正隆,				
金沢卓也,	鎌田美弥,	木下一彦,	近藤 淳,				
阪柳雅志,	椎名美和子,	神保 良,	竹味利晃,				
友利優一,	長治豊一,	中島克仁,	仲田英二,				

広報委員会からのお知らせ

広報委員会では、会員の皆様から広くご意見、ご要望をお待ちしておりますので、以下の連絡先までお願いいたします。

広報委員会委員長 山内六男

委員：松下恭之、児玉利朗、嶋田 淳、十河基文、内藤宗孝

〒500-8309 岐阜市都通5-15

朝日大学歯科臨床研究所附属歯科診療所

電話 058-253-7272

ファックス 058-254-1424

広報委員会メールアドレス：jsoi@jsoi.jp

## 第 35 回日本口腔インプラント学会学術大会案内

開催日：2005 年 9 月 17 日（土），18 日（日）  
 会 場：弘前市民会館，弘前文化センター，ホテルニューキャッスル，弘前商工会議所会館  
 大会長：木村博人（弘前大学医学部歯科口腔外科学講座）  
 準備委員長：小林 恒（弘前大学医学部歯科口腔外科学講座）  
 連絡先：〒 036-8562 弘前市在府町 5  
 弘前大学医学部歯科口腔外科学講座  
 電話：0172-39-5126 FAX：0172-39-5128  
 E-mail：kouge@cc.hirosaki-u.ac.jp

## 第 36 回日本口腔インプラント学会学術大会案内

開催日：2006 年 9 月 17 日（日），18 日（月）  
 会 場：朱鷺メッセ  
 大会長：畑 好昭（日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学第 2 講座）  
 準備委員長：渡邊文彦（日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学第 2 講座）  
 連絡先：〒 951-8580 新潟市浜浦町 1-8  
 日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学第 2 講座  
 電話：025-267-1500 FAX：025-231-0231  
 E-mail：fumi@ngt.ndu.ac.jp

## 第 25 回日本口腔インプラント学会近畿・北陸支部総会・学術大会案内

開催日：2005 年 7 月 23 日（土），24 日（日）  
 会 場：金沢都ホテル（7 月 23 日），石川県地場産業センター本館（7 月 24 日）  
 大会長：扇谷義郎  
 実行委員長：矢原憲雄  
 認定医更新用教育講座 7 月 23 日（土）17：00～18：00  
 「インプラントにおける咬合のエビデンス」  
 山内六男（朝日大学歯科臨床研究所附属歯科診療所）  
 特別講演 7 月 24 日（日）13：00～14：30  
 「『歯の健康』から『全身の健康』」  
 村山洋二（岡山大学名誉教授）  
 歯科技工士セミナー 7 月 24 日（日）10：00～12：00  
 「インプラントの臨床補綴—審美性・周囲組織を考慮した上部構造の技工—」  
 鶴巻春三  
 歯科衛生士・助手セミナー 7 月 24 日（日）13：00～14：30  
 「インプラントシステムのアシスタントワーク—インプラント治療における歯科衛生士の役割—」  
 阿部田暁子  
 演題申込締切：2005 年 4 月 11 日（月）  
 抄録原稿締切：2005 年 5 月 10 日（火）  
 連絡先：〒 929-2241 石川県七尾市中島町浜田レ 41-1  
 室木歯科口腔外科医院内  
 電話・FAX：0767-66-0489  
 E-mail：letter@muroki-tooth.com

## 目 次

本号のトピックス（シンボル・ロゴマーク決定，優秀論文賞受賞者紹介，優秀研究発表賞決定， デンツブライ賞決定，第34回学術大会報告，研修施設紹介）……………	1
シンボル・ロゴマーク決定する……………	1
優秀論文賞受賞者紹介……………	2
学会功労賞受賞者紹介……………	3
名誉会員紹介……………	3
特別賞受賞者紹介……………	4
優秀発表賞……………	4
第34回日本口腔インプラント学会学術大会を開催して……………	5
第35回日本口腔インプラント学会学術大会のご案内……………	7
認定医申請用教育講座開催される……………	7
研修施設紹介	
青森インプラント研究会……………	8
社団法人日本歯科先端技術研究所……………	8
徳島大学病院口腔インプラント診療部門……………	10
日本歯科大学新潟歯学部附属病院……………	10
支部活動報告	
中部支部……………	12
研修施設……………	13
新入会者紹介……………	13
第35回日本口腔インプラント学会学術大会案内……………	15
第36回日本口腔インプラント学会学術大会案内……………	15
第25回日本口腔インプラント学会近畿・北陸支部総会・学術大会案内……………	15
日本学術会議会長コメント……………	16
広報委員会からのお知らせ……………	14
目次……………	16
広告……………	3, 4, 6

## 日本学術会議会長コメント

平成 16 年 12 月 24 日

このたび、理化学研究所の研究者による研究論文の改ざんが行われたことは、大変残念です。

日本学術会議においては、「科学における不正行為とその防止」は重要な課題であると認識しており、平成 15 年 6 月 24 日、学術と社会常置委員会から、その防止のための対応策についての提言を行っています。

その中で、論文の改ざん、捏造等の不正行為は科学の健全な発展を阻害し、科学に対する社会的評価を損なうだけでなく、人々の生存、生活、福祉に重大な影響を与え、基本的人権や人間の尊厳を傷付けることにもなりかねません。科学における不正行為の防止は、科学者コミュニティが社会に対する説明責任を果たし、科学者が広く国民から評価され、尊敬される社会を築くために不可欠な、科学者が自ら解決すべき実践的課題であることを明らかにしています。

この提言を踏まえ、日本学術会議は、現在、「科学者の代表」として、社会と対話しつつ科学者コミュニティ内の議論を深め、不正行為の抑止と研究上の誠実さの確保に関する具体策の策定に向け、引き続き、鋭意審議を進めているところであり、このような不正行為の再発防止に向けて、早急に提言を取りまとめたいと考えています。

日本学術会議会長 黒川 清

## 【参考】

対外報告「科学における不正行為とその防止について」（平成 15 年 6 月 24 日）

## 【問い合わせ先】

日本学術会議事務局総務部庶務課文書係

電話：03-3403-1906（直通）

E-mail：g227@scj.go.jp